

じゅうじょう
6 十条 〈千代田町〉

人口 146 人、世帯数 36 世帯

十条地区は、国道 34 号線から南の県道佐賀外環状線の西側に位置しています。

地名は、大化の改新（836 年）による条里制で、三養基郡と神埼郡の境を一条として、西方に数えてちょうど十条に相当することからついたといわれています。

地区の北側には神社（天満宮）があり、平成 17 年 9 月に新築しました。その後、毎年 12 月には、地区の役員、祭の施主、それに子どもクラブの参加で正月のしめ縄作りを行っています。

今後も、地区の豊作と安泰を願い、親睦を深める行事として受け継ぎたいと思います。



▲子どもクラブ参加のしめ縄作り

できじま
8 出来島 〈千代田町〉

人口 192 人、世帯数 50 世帯

出来島地区は、市の最東南部に位置し、西には国道 385 号が通り、筑後川（中津大橋）を隔てて久留米市城島町と結ばれています。

地区にある御髪神社では、元日の年賀式、2 月 11 日の建国記念日の神事、4 月第 3 日曜日の春こもり（グラウンドゴルフ大会）、7 月第 3 日曜日の祇園さん（神事）、9 月第 2 日曜日の秋こもり、そして 11 月第 3 日曜日の秋祭り、と、親睦と融和を図る行事が一年を通して行われます。

また、農地・水・環境保全事業に取り組んでおり、地区の環境が良くなっています。



▲御髪神社へのしめ縄飾り

もとおりむた
5 本告牟田 〈神埼町〉

人口 125 人、世帯数 41 世帯

本告牟田は、城原川を挟んだ神埼町南部に位置しています。中世には、標高 3～4 m の低湿水田部に位置する大小の島により構成された中世の城館である本告城がありましたが、県営ほ場整備事業により水路部分を発掘調査した後、工事が行われ、大きく姿を変えています。

また、この地区の南方と伝えられる長者林古戦場で戦死した江上信種を慰霊するため、文政 12 年（1829 年）自得寺で 250 年御忌を行い、位牌を寺内にたて、信種（のぶたんさん）神社が建立されています。昔から地区民が代々祭りをを行い、8 月 18 日には慰霊祭が、今でも江上の子孫代表者を招待して実施されています。



▲信種（のぶたんさん）神社での慰霊祭

あまりえ
7 餘江 〈千代田町〉

人口 136 人、世帯数 43 世帯

餘江は、千代田町西部地区の東端、県道佐賀八女線沿いにあります。地名は条里制の名残という説もありますが、食料が豊かで、川（江）の流れる田野を想像させる地名でもあります。

心のよりどころは格の高い旧村社「香椎神社」で、蓮池藩の歴代藩主が参勤交代の無事を祈って、たびたび参拝したことが蓮池藩日史に記されています。また、香椎神社では、春秋の大祭、12 月の村祭り、そして 12 年に一度の午年祭などの地区行事も開かれます。

小さな地区ですが、まとまりには定評があり、スポーツや最近の農地・水・環境活動にそれが現れています。



▲世代間交流のしめ飾り作り

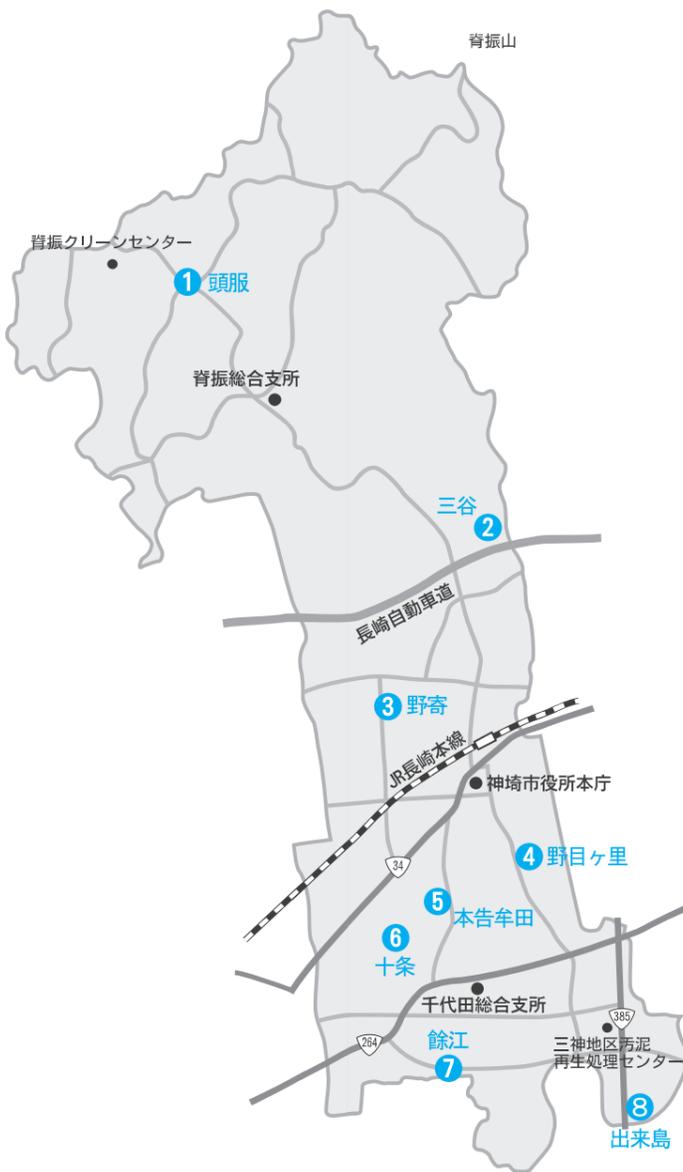
地区紹介 11



市民相互の理解と融和を図るため、市内 121 地区（神埼：63 地区、千代田：49 地区、脊振：9 地区）を紹介しています。

今回は、8 地区を紹介します。

※人口、世帯数は、平成 20 年 12 月末日の住民基本台帳のデータです。（施設などを含みます。）



みたに
2 三谷 〈神埼町〉

人口 122 人、世帯数 36 世帯

三谷地区は、大高山の真下に位置し、山間を利用して米・みかんを耕作しています。昔は、和紙づくりが盛んでしたが、今は、文明の力により行われていません。

現在は、少子高齢化が進み戸数・人口が減り農地などの放棄も見られますが、このような中で、村おこしの一環として、運動会、納涼祭りなどを実施しています。

昨年からは餅つき会を実施していますが、そのなかで昔ながらの遊び（竹馬・竹矢・竹とんぼ・紙鉄砲など）を子どもたちと一緒に行いました。今後もこのような活動を、残していきたいと思っています。



▲餅つき交流会

のめがり
4 野目ヶ里 〈神埼町〉

人口 146 人、世帯数 51 世帯

野目ヶ里地区は、JR 神埼駅から南方約 3km に位置し、周囲を水田で囲まれたのどかな環境の小さな地区です。地区の中央を馬場川が流れており、昔は農業が主な仕事でしたが、今は専業農家も少なくなりました。

伝統行事としては、8 月に豊作祈願の「祇園さん」、12 月には「おん祭」があります。いずれも「お天神さん」を祭ってある地区公民館で行われます。

また、地区住民間の親睦を目的として、子どもクラブの焼き肉会や敬老会も実施されていて、長年にわたる行事として定着しています。



▲むら祭りの準備（地区公民館）

とうふく
1 頭服 〈脊振町〉

人口 106 人、世帯数 41 世帯

地区の名称は、神崎市発足時に頭野、服巻地区が合併し「頭服」地区となりました。

頭服は、神埼市の最北部に位置し、城原川の上流と頭野川との合流地域には、縄文時代から人々が住んでいたと思われる森山遺跡、大作遺跡、山口遺跡等があります。また、近世には、服巻城や山の頂には烽火台があったとも言い伝えられています。

名所は、清流で水量豊富な荒瀬の滝や、佐賀県の銘木に指定された最勝寺の石楠花があります。石楠花の満開時は見事で、4 月下旬から 5 月上旬が見ごろです。



▲最勝寺の石楠花（シャクナゲ）

のより
3 野寄 〈神埼町〉

人口 46 人、世帯数 14 世帯

野寄地区は、城原川の右岸、日の隈山の南麓部に位置し、横落水道が東西に流れています。この水が地区内 20 へクタール余の水田を潤し、豊かな田園風景をみせています。

その昔、暴れる大蛇を退治するに際し、村人達がこの地に集まって相談したことから「野寄」の地名が生まれたとも伝えられています。

天神様を氏神とし、毎年 12 月 25 日に村祭りを行います。23 日の天皇誕生日には、施主を中心にしめ縄作りをしています。地区は、明治より代々続家とその分家筋の住民が多く、団結力の強いのが自慢です。



▲野寄天満宮のしめ縄飾り